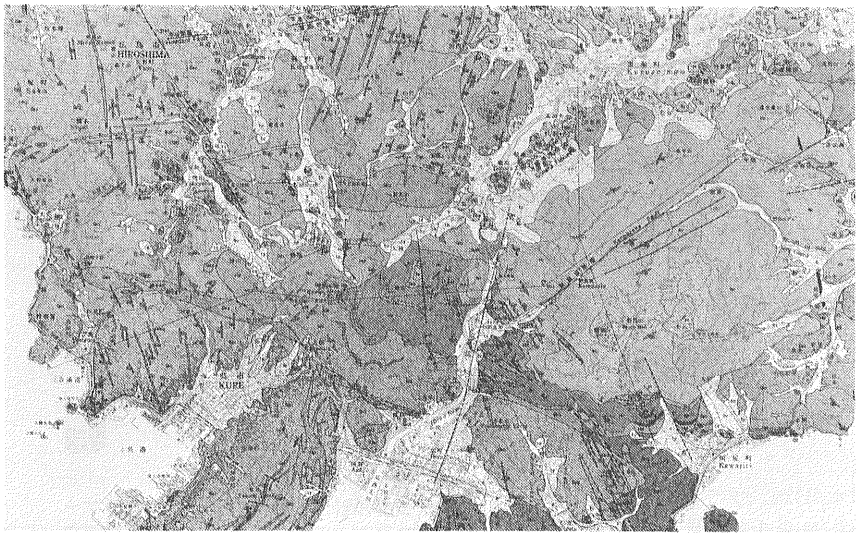

呉地域は瀬戸内海に突き出た半島状の地域で　山が海にせまっている地形のために陸上の交通は数多くのトンネルで成り立っている．　歴史的には平清盛が音戸の瀬戸を開削して水運の便に努めたように　むしろ海とのつながりの深い土地柄であった．　この人々の往来を妨げてきた山地の大部分は中生代白亜紀の後半に噴出した高田流紋岩類と　これに貫入する広島花崗岩類とからなっている．

高田流紋岩類は大部分が溶結した流紋岩質～デイサイト質の火砕岩で　堅硬な浸食されにくい性質のために灰ケ峰（737.0m）や野呂山（839.4m）のような高い山地を形成している．広島花崗岩類は広島市周辺から岡山市付近に至る底盤状の岩体をなすと考えられており　呉地域内では200～550mの低い山地を形成している．　岩相は主として中－粗粒の角閃石を含む黒母花崗岩からなっているが　このほかに花崗閃緑岩や細粒花崗岩が区別されて詳細な記載が付されている．　ところで　花崗岩は一般に風化に弱く浸食され易い性質を持っているのであるが　呉地域の場合には風化浸食に抵抗性のある花崗斑岩の岩脈群が貫入して背骨のような稜線を形成するので　どうしても崩れ易い花崗岩が急斜面を形成してしまうのである．　呉市は神戸市とともに昔から斜面崩壊の災害の多い街であったが　地質図から崩壊を招き易い事情を明瞭に読み取ることができる．因みに神戸市の場合は　断層の活動で花崗岩塊が隆起することで花崗岩の急斜面が形成された．

このほかには芸予層群（三畳系－ジュラ系と推定）と第四系が小範囲に分布している．　芸予層群は南部沿岸－芸予諸島に泥岩・砂岩・チャート・石灰岩などからなる地層である．　また第四系は北東部から東広島市にかけて広がる更新世の砂礫層（西条層）と　河川沿いの段丘堆積物及び山麓部の崖錐堆積物とからなる．　特に注目されるのは　これらの第四系を変位させている活構造が幾つか発見されたことで　これも詳細に記述されている．

地質調査所が5万分の1地質図幅の刊行を始めて既に30年余りになるが　広島県下では北部県境を除くと呉地域の地質が最初の図幅となる．　呉市は人口23万人を数える広島県下第三の都会であり　北東部に至る地域は通産省の推進するテクノポリスに指定されて今後の発展が期待されている．　したがってここに呉地域の地質が刊行されたことは　単に地質学のみならず開発・防災の見地からも誠に喜ばしいことといえよう．

5万分の1地質図幅の新刊

呉
KURE

5万分の1地質図幅　地域地質研究報告

著　　者　東元定雄・松浦浩久・水野清秀
河田清雄

発　　行　工業技術院　地質調査所

取 扱 先　東京地学協会（03)261-0809　262-1401
そのほか全国主要書店

販売価格　2,790円

地質ニュース　第372号　8月号
定価 ¥600　〒実費

昭和60年8月1日　発行
編集　工業技術院地質調査所
発行人　林久雄
発行所　株式会社 実業公報社
東京都千代田区九段南4の2の12
〒102
Tel.（03)265-0951(代表)
振替口座　東京1-32466
総発売元　株式会社 実業公報社
出版事業部

©1985 Geological Survey of Japan